北村西望について

「平和は長崎から……
平和祈念像へかける願い」

（提供:南島原市）

昭和20(1945)年8月9日午前11時2分　長崎に原子爆弾が投下されました。27万人の人口が一瞬にして半減し，長崎はこの世の地獄と化しました。人類初の原子爆弾が広島に落とされたわずか3日後の惨禍でした。被爆者は「二度と戦争を起こしてはならない。人類を永遠に原爆の惨禍から救わねばならない」と，原爆の恐しい体験を訴えつづけ，その中から「平和は長崎から」の言葉が誰の口からともなく生まれたのでした。7万数千人に上る原爆犠牲者の慰霊塔として，平和祈念像が北村西望によって建立されました。

西望は，明治17(1884)年長崎県南高来郡南有馬村(現在の南島原市)に6人兄弟姉妹の末っ子として生まれました。小学校時代には，学校から帰ると教科書を放り出して遊んでばかりいて，あまり勉強には縁がなかったようです。しかし高校では一転して机に向かうようになり，卒業後は17歳で母校の小学校で教師として働きました。

その後，新たに学び直すため退職し，長崎師範学校に入学しましたが，その3ヶ月後病気にかかってしまい自宅で静養生活を送っていました。絵を描くことで退屈を紛らしていましたが，ある時，西望の父の隠居所の欄間の制作をさせてもらうこととなりました。この欄間の彫刻は，19歳の若者が彫ったとは思われぬほど見事なものであ

り，彫刻家としての才能を開花させるきっかけとなったのでした。

周囲の勧めもあり，美術学校で本格的に彫刻を学ぶこととなりました。卒業後兵役を終えたのちより次々と賞をもらうようになり，やがて日本を代表する彫刻家へ成長していきました。

「原爆中心地に何か意義深い記念碑を」との長崎市からの強い要望により，「平和祈念像」の制作を依頼され，昭和26(1951)年より制作を開始しました。平和祈念像建設費の多くは，平和を願う人々からの募金で，広く国内外から寄せられたものでした。

西望は，「記念」像ではなく，「祈念」像としました。それは単に長崎の平和が始まったことを記念することに止まらず，世界に平和を「祈る」ことを呼びかけ，世界的な平和祈念運動を展開しなければとの強い信念からでした。そして祈念像は西望の最も得意とする男性裸像とし，平和を志向する像として腰を据えて瞑想にふける奈良の大仏のような座像，できるだけ大きなものと四十尺像(12m)を計画しました。しかし，後に建てたアトリエの都合上やむなく祈念像は32尺(9.7m)とされました。

平和祈念像は，昭和30(1955)年8月8日に長崎市浦上の平和祈念公園で除幕式が行われました。

平和祈念像　（提供:長崎県観光連盟）

天を指す右手は原爆の驚異，水平に伸ばした左手は平和をすすめる姿であり，柔和な顔つきは「愛」「慈悲」を表し，軽く閉じた目は戦争被害者の冥福を祈ることを表現しました。

式には3000名が参列し，平和を祈り，平和を世界に訴えていくことを新たに誓い合いました。翌日の9日は，10回目の平和祈念式典が行われ，あの運命の午前11時2分にはアンジェラスの鐘とサイレンが全市に鳴り響き，30万人の長崎市民は長い黙祷を捧げました。

平和祈念公園には，毎年多くの観光客が訪れ，今もなお西望が作った平和祈念像は，「平和のシンボル」として平和の大切さを訴え続けています。

その後も西望は多くの作品を残し，昭和62(1987)年に104歳でその生涯を終えました。